

3年生 県立芸術大学受験の 仕上げ時にインタビュー

20



あれでもない、これでもない・・・ 考えれば考えるほど沼にはまる？

今年、沖縄県立芸術大学へ受験を考えて行動している3年生女子生徒へ、色々と提出が終わり一段落ついたタイミングで取材を実施！



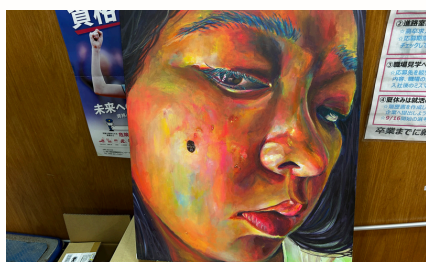
「作品制作もしながら、 進路活動・・・ 分かってはいたけど、 厳しすぎる」

日本には、美術・芸術を専門に学ぶ大学（「美大」「芸大」）があり、それらは国立・公立（県立・市立）と私立に大きく分かれています。沖縄は、沖縄県那覇市にある公立の芸術系大学で、正式名称は「沖縄県立芸術大学」。略称として「沖芸」「県芸」などと呼ばれます。国公立・公立美大の中では、「5芸大」と呼ばれるラインがあり（東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学）沖芸もその中に数えられています。沖芸の場合、「地域の文化・伝統・自然」と深く結びついた教育が特徴的で、単に「美術を学ぶ」「音楽を学ぶ」というだけでなく、沖縄ならではの視点・環境を活かせる点が大きな特色です。

「簡単に合格できる大学ではない」という点です。この大学へ受験するということは、しっかりと進路活動への意識を持って取り組むということ。そんな大学へ受験（学校型推薦）を控えているクリエイティブアーツコース3年のある生徒に、少しだけお話を伺いました。

質問「受験を実際にしてみて、後輩へ伝えておきたいことはありますか？」

回答「3年生から目指すとすると、遅いような気がした。私はずっと描き続けてきたし、画塾にも通っているからギリ何とかなるかもしれない。小論文は沢山進路室に通ったし、沢山アドバイスを受けて何度も練り直した。それでも実際、上手くいっているか分からない時もあった。夜遅くまで試験対策をして、それでも受かるかまだ分からない。受験をするなら、「本気」で挑んでほしい。」



アドバイスをもらっている場面

画塾にも通いながら、受験に提出する絵を描いたTさん。最後の最後まで加筆修正をするため、放課後にアドバイスを貰っていました。